

大学等名：宮崎国際大学

テーマ：テーマⅠ（アクティブ・ラーニング）・Ⅱ（学修成果の可視化）複合型

事業の概要

本事業では、本学の従来の教育実践を基盤に、本学教育の主要な学修成果であるクリティカル・シンキングと英語スキルの可視化を行い、これらの修得を最大化させるアクティブ・ラーニング手法の開発、その実践及び体系化を行う。本事業の特徴は大きく3つある。1つ目は、これまで実践してきたアクティブ・ラーニングのベスト・プラクティスの明確化と実践である。2つ目は、クリティカル・シンキングとアクティブ・ラーニングとの関係から捉えた英語スキルの可視化を行うことである。3つ目は、アクティブ・ラーニングとクリティカル・シンキング及び英語スキルの対応関係をルーブリック・ベース・シラバスにより視覚化し、学修のPDCAサイクルを確立することである。

☆ 取組の背景と問題点

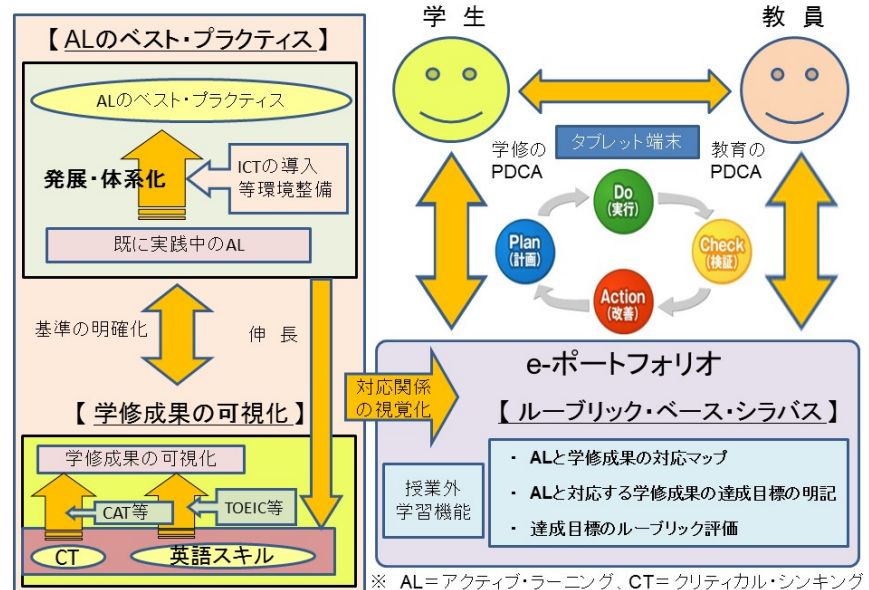
本学は開学以来、ほとんどの授業で英語によるアクティブ・ラーニングを実践し、クリティカル・シンキングを重視した国際的リベラルアーツ教育を行ってきたが、アクティブ・ラーニングの手法が体系化されておらず、学修成果であるクリティカル・シンキング等の客観的評価指標が確立していなかった。

☆ 取組の内容・ポイント

- 1, eポートフォリオ等のICT導入による既存のアクティブ・ラーニングの発展を目指し、さらに学生の授業外学修時間の増加を図る
- 2, これまで実践してきたアクティブ・ラーニングのベスト・プラクティスを明確化する
- 3, 学修成果としてのクリティカル・シンキングの可視化とアクティブ・ラーニングによる英語スキル向上プログラムの体系化を行う
- 4, アクティブ・ラーニングとクリティカル・シンキング及び英語スキルの関係をルーブリック・ベース・シラバスにより視覚化し、学修のPDCAサイクルを確立する

☆ 見込まれる成果と波及効果

	平成26年度 (実績値)	平成28年度 (実績値)	平成31年度 (目標値)
アクティブ・ラーニングを実施する授業 (受講する学生の割合)	79% (100%)	91% (100%)	100% (100%)
学生の授業外学修時間(週当たり)	10.6時間	11.2時間	36時間
授業満足度	64%	60%	92%
退学率	8.8%	3%	1%



- ① 本学でこれまで行ってきた種々のアクティブ・ラーニングを体系化し、クリティカル・シンキング及び英語スキルの向上におけるアクティブ・ラーニングの効果を客観的な指標で示す事ができる
- ② クリティカル・シンキングの測定・評価とその育成に対するアクティブ・ラーニングの効果を示す大規模な教育実践事例となる
- ③ 英語を用いた授業におけるアクティブ・ラーニングの有効性や、そこの学修成果について、1つの教育モデルを提示することができる